|  |
| --- |
|  　２０２１年 １０月　No.６２　　　 　日本比較文化学会**JACC　比較文化会報****本部事務局**：〒803-0835 福岡県北九州市小倉北区井堀1丁目3番5号西南女学院大学　観光文化学科　林裕二研究室内 　　**会長室**：〒803-0835 福岡県北九州市小倉北区井堀1丁目3番5号西南女学院大学　観光文化学科　八尋春海研究室内**学会HP**：http://www.hikakubunka.jp/ |

**《会長 巻頭言》**

**日本比較文化学会会長 八尋 春海**

　みなさま、いかがお過ごしでしょうか。これまで、さまざまな活動にご参加いただき、感謝申し上げます。

昨年度の全国大会は対面とオンラインのハイブリッドでしたが、先日、開催されました大会は、オンラインのみでの大会でした。昨年度に続いて、今年度もこれまでにない新たな試みとなりました。学会としては、従来の対面に加えてハイブリッドやオンラインによる全国大会開催のノウハウができたということになります。主催していただいた関東支部のみなさまには、準備段階から当日の運営まで、大変お世話になりました。この場をお借りして、お礼を申し上げます。次回は、2022年5月に山形大学において対面で開催する予定です。東北支部のみなさまには、ご面倒をおかけすることになりますが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

全国大会の日に開催された理事会では、北海道支部の設立が承認されました。中部支部以来の新しい支部の誕生です。元会長の山内信幸先生と私は、9月25日の支部設立総会に参加いたしました。北海道支部長に就任されたのは、前会長の奥村訓代先生であり、心強い限りです。マスコミ3社の取材、理事長のご出席もあり、支部の明るい未来の予感がありました。支部所属会員も幅広い年齢層にまたがっており、そんなところにも多様性が見られました。

本学会では、会員自らが居住地にかかわらず、所属支部を選ぶことができます。また、複数の支部に所属することも可能です。北海道での支部活動にご関心方のある方はぜひ、北海道支部にも会員登録をなさってください。2023年度には、全国大会も北海道で開催されます。

新型コロナウイルス感染拡大のため、会員のみなさまも、各支部におかれましても、活動が制限されることがありますが、何とか乗り切って参りましょう

**《2022年度日本比較文化学会第44回全国大会（国際学術大会）開催のお知らせ》**

**東北支部長・大会実行委員長**

**伊藤 豊（山形大学）**

2022年度第44回全国大会（国際学術大会）を、以下の要領で開催いたします。

日時：2022年5月21日（土）

会場： 山形大学小白川キャンパス（山形市小白川町1丁目4-12）

シンポジウム・テーマ：「比較文化と共創社会」

**＊シンポジウム要旨**

　現代の世界は、国籍、民族、ジェンダーそして障がいなどの点で多様なルーツや個性を持つ人々が「共生」する段階から、相互の文化的な差異を積極的に受け入れ新しい価値を造り出し、社会に未来志向の活力をもたらす「共創」の段階へと、着実に進みつつあるように見える。我々はこのような大きな変化の最中に、いったい何を議論し、何を課題とすべきであろうか。本シンポジウムでは共創社会の諸相と将来について、理論と実践の両面を視野に入れつつ、比較文化の立場から様々に考えてみたい。

**＊発表募集**

全国大会にて口頭発表をご希望の方々は、下記の期間にご応募ください。

　・2021年12月１日：研究発表申込みの開始

　・2022年１月31日：研究発表申込みの締切り

今後、大会関連情報は学会HPに随時掲載いたします。奮ってご応募の程お願い申し上げます。

**《大会報告：2021年度日本比較文化学会第43回全国大会（国際学術大会）》**

 **関東支部長・大会実行委員長　近藤 俊明（東京未来大学）**

2021年9月19日に東京未来大学（遠隔会場）において「第43回全大会・2021年度学術大会」を実施した。当日は、総会にはじまり、開催校の学長角山剛氏による講演、「比較文化学のスキームを求めて」をテーマとしたシンポジウムを開催し、シンポジストと4名のパネリストによる発表と会場との闊達な議論がなされ、午前の部を終了した。午後の部は、9つの分科会に分かれ、各分科会にて活発な議論が交わされた。本年度の口頭発表としては、各支部の会員のほか、韓国と台湾の提携学会や海外在住の会員からの積極的な参加により、総勢41名の発表が行われた。コロナ禍のため、完全オンライン開催という学会初の試みによる実施であったが、大きなトラブルもなく、盛会のうちに終了することが出来た。

**《編集委員会報告》**

**編集委員長　中村 友紀**

１．2021年度の日本比較文化学会奨励賞は、授賞対象なしという結果になりました。2月に編集委員8名を委員とする選考委員会が発足し、『比較文化研究』139号～142号に掲載された論文を審査対象として各支部から推薦を募りましたが、いずれの支部も推薦なしとなりました。その結果、選考委員会としては、2021年度の奨励賞授賞論文はなしとの結論に至りました。奨励賞は、40歳以下の若手研究者の研究の奨励のために、主に「論理性」「独創性」「貢献性」「将来性」の4つの面で優れた論文を顕彰することを目的としております。2022年度奨励賞は143号～146号掲載の論文が選考対象となります。来年こそは授賞を行えることを期待しております。

２．7月に投稿規程を一部改訂しました。現時点で第2条となっているものが、新たに追加された項目です。

３．九州支部編集責任者が、砂川典子先生から佐藤慶治先生に交代となりました。砂川先生には長い間ありがとうございました。

**《総会報告》**

**事務局長　林 裕二**

2021年9月19日（日）東京未来大学（遠隔会議室）にて開催した日本比較文化学会総会の議事録を以下に報告します。

【報告】

1. 会員の動向：全会員数（2021年9月6日現在）555名

2. 北海道支部の設立：

2-1. 理事：2022年5月の理事会で支部長と支部指名理事を出す。＊会則の理事の定数はその

ままとする。

2-2. 全国大会：2023年度の大会を北海道支部主催とする。

2-3．編集担当：支部の活動が安定した段階で支部から申し出ていただく。理事会で承認され

たことの報告。

3.編集委員会からの報告：奨励賞については該当者なしの報告。また、査読システムの変更につ

いての報告。

4. 広報委員会からの報告：委員会の活動報告。

5. 各研究部会

【議事】

1. 第44回全国大会・2022年度国際学術大会開催会場及びシンポジウムの件

日時：2022年5月21日（土）会場：山形大学小白川キャンパス。承認。今後の全国大会主

催支部のローテーションは「東北（2022年度44回大会）→北海道（2023年度45回大会）→

中部→中国・四国→関西」となる。

2. 2020年度会計決算の件：承認

3. 2021年度会計予算の件：承認

**＊2020年度決算・2021年度予算報告は巻末（p.８）に掲載しております。**

**《支部報告》**

**東北支部**

＊【報告】2020年度 東北支部総会・大会

日時：2021年3月29日（月）13:30-15:20

場所：Zoomによるオンライン開催

プログラム

１．支部総会

２．開会の挨拶　伊藤 豊

３．研究発表（司会　佐藤 和博／伊藤 豊）

(1) 肖 燕知 （東北大学）「周作人における翻訳と民俗への関心との関連性―周作人訳『枕草

子』の注釈を中心に―」

(2) 臺丸谷 美幸（水産大学校）「1950年代の米国におけるマイノリティ兵士のシティズンシッ

プと人種間闘争―日系アメリカ人とアフリカ系アメリカ人の比較検討から―」

４．閉会の挨拶　佐藤 静

＊【お知らせ】2021年度 東北支部総会・大会の開催

　例年、東北支部総会・大会は年明けの2〜3月に開催していましたが、来年は5月に東北支部担当で全国大会（会場：山形大学）が予定されており、ちょうど2〜3月は全国大会の準備で忙しくなる頃かと思われます。そこで、本年度の支部総会・大会は時期を少し早めて、本年の12月中に開催することになりました。日程の詳細ならびに研究発表の募集については、近日中に学会HP等にて改めて告知いたします。

**支部長　伊藤 豊**

**関東支部**

＊【報告】

本年度は「第43回全大会・2021年度学術大会」を主催するため、例年9月に実施している支部例会を本年度は中止とした。

　4月に大会運営委員会を立ち上げ、約5か月間にわたり全国大会の準備を行った。多くの会員の参加により、大会運営をスムーズに実施出来た。

　今後の予定として、12月の支部例会、3月の支部例会・2021年度総会の開催を予定している。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**支部長　近藤 俊明**

**中部支部**

＊【報告】中部支部令和2年度例会

　　　日時：2021年3月28日（日）

場所： 浜松学院大学（Zoomによる開催）

１．研究発表

(1) 白鳥 絢也（常葉大学）「コロナ禍におけるオンライン授業のあり方に関する研究―『教育

課程論』及び『国際文化論』受講生の意見を参考に―」

(2) 樋口 謙一郎（椙山女学園大学）「コロナ禍における大学教員の海外出張―問題点と事例―」

(3) 川口 雅也（浜松学院大学）「虚構と現実の狭間で―隠喩が機能しなくなるとき―」

(4) 大﨑 洋（愛知大学綜合郷土研究所）「『講』を源流とする西三河のカラオケ喫茶」

(5) 山川 智子（文教大学）「ドイツの対外言語普及の新たな視点―『複言語・複文化主義』の

発想からの考察―」

(6) 二村 洋輔（海陽中等教育学校）「マレーシアにおける孔子学院の現況とその意義に関する

一考察」

(7) 風早 悟史（山口東京理科大学）「ラフカディオ・ハーンと映画―小林正樹監督『黒髪』に

おける復讐の表象―」

(8) 田島 喜代美（浜松学院大学）「文化財の保存とその活用―文化財保護法改正を地域経営か

ら考察する―国指定重要無形民俗文化財『川名ひよんどり』の事例から」

(9) 津村 公博（浜松学院大学）・田島 喜代美（浜松学院大学）「外国につながる子どもの教育

の新しい視点―フィリピン共和国教育省RegionⅪとの教育連携の事例から―」

＊【その他】

中部支部は、本年12月に中部支部大会を開催するべく検討を進めております。決定しましたら、学会ホームページを通してお知らせいたします。

**支部長　白鳥 絢也**

**関西支部**

＊【報告】日本比較文化学会関西支部3月例会

　　　日時：2021年3月13日（土）13:30-17:20

場所：同志社大学今出川キャンパス　良心館408教室、409教室

プログラム

１.　研究発表（13：30-16：10）

・良心館（408教室）

(1) 黄 明淑（ヒューマンアカデミー） 「成熟時代における『仏系』中国人日本語学習者のライ

フスタイルの様相およびその影響要因に関する一考察―『90後』中国人日本語学習者へのイ

ンタビュー調査を通じて―」

(2) 丁 若思（京都橘大学大学院） 「森鷗外『魚玄機』論」

(3) 孫 睿卿（同志社大学大学院）「中国人日本語学習者の『AのB』形式の使用に関する日中

対照分析」

(4) 松井 一美（創価大学）・吉田好美（早稲田大学）・水上弘子（早稲田大学）「非漢字圏学

習者が興味を持つ日本語漢字語彙―初級漢字クラスの発表活動より―」

(5) ルッケル瀬本 阿矢（立命館大学） 「『グローバル人材』に対する企業と大学の定義の比較

と大学の今後の役割について」

・良心館（409教室）

(6) 駱 媛（広島大学大学院）「水害常襲地域における水文化の継承と課題―中国江西省九江市

を例に―」

(7) 銭 蕾（大阪大学大学院）「中国における日本ドラマ『チェリまほ』の受容」

(8) 佐古 恵里香（京都精華大学）「日本語学習者の母語の知識を活かしたことわざの指導法：

日本語学習者の母語のことわざとの相違から」

(9) 橋尾 晋平（同志社大学）「初級レベルの日本人大学生を対象としたオンライン授業におけ

る英語ディベートの授業実践」

２．講演　(16:20-17:20) 良心館 408教室

鈴井 宣行先生（創価大学名誉教授） 「私のアフリカ研究と二人のセネガル知識人から学んだこと」

＊【報告】日本比較文化学会関西支部10月例会

　　　日時：2021年10月2日（土）14:00～17:10

場所：同志社大学今出川キャンパス　良心館408教室・Zoom

プログラム

１.　研究発表（14：00-16：10）

(1) 龐 朝霞（奈良女子大学大学院）「日中における災害文化を巡る検討―なぜコミュニティが

中国災害文化の主体ではないのか―」

(2) 道合 裕基（京都大学吉田南総合図書館）「松本清張『穴の中の護符』におけるコナン・ド

イル、岡本綺堂からの影響について」

(3) 清藤 隆春（徳島大学／九州大学大学院）「多文化共生社会における地域仏教寺院の果たす

役割―SCATによるベトナム仏教法要参加者の語りの分析から―」

(4) 佐古 恵里香（京都精華大学）「中上級日本語学習者の中間言語における段階性に関する一

考察：サピア・ウォーフ仮説を援用した学習者のイラスト分析を通じて」

２．講演（16:20-17:10）

野村 幸一郎先生（京都橘大学文学部教授） 「二・二六事件から三島由紀夫へ」

＊【お知らせ】

今後の予定：

・関西支部12月例会 2021年12月18日（土） 会場：同志社大学今出川キャンパス

・関西支部3月例会　2022年3月19日（土）会場：同志社大学今出川キャンパス

**支部長　山内 信幸**

**中国・四国支部**

＊【報告】中国・四国支部研究会

日時：2021年8月8日（日）13:00-15-15

場所：Zoomによるオンライン開催

プログラム

１．研究発表

(1) 李 然（法政大学大学院）「『甘え』と『縮み志向』の比較研究」

(2) 星野 凜（徳島大学大学院）「集会の制限下におけるサードプレイスの存続と対応―子ど

も食堂での読書啓発活動を通して―」

(3) 董 航（（株）イノハーブインターナショナル）「中江藤樹の著作群における『鑑草』の

位置づけ」

(4) 風早 由佳（岡山県立大学）「竹久夢二のマザーグース受容―挿絵を手がかりに―」

・新型コロナウイルス感染症対策のため Zoom による遠隔配信でおこないました。参加者の皆様のご協力により、大きな事故やトラブルもなく開催できました。深く感謝申し上げます。

＊【お知らせ】関西、中国・四国、九州三支部合同研究集会

日時：2021年12月19日（日）

場所：Zoomによるオンライン開催

・発表応募は10月1日(金)より、詳細は学会HPでお知らせいたします。学会員の方であればどなたでもご参加・ご応募できます。どうぞよろしくお願いいたします。

**支部長　轟木 靖子**

**九州支部**

＊【報告】第33回九州支部大会

日時：2021年6月26日13:00-17:00

会場：鹿児島女子短期大学（鹿児島市）

プログラム

１．開会式・総会（13:00-13:10）

２．研究発表

・第1部　13:10-14:40　司会：八尋 春海（西南女学院大学）

(1) 山崎 祐一（長崎県立大学）「知識・技能を活用し話す力に結びつける官民協働の英

語教育―異文化理解の要素を取り入れた取組―」

(2) 林 裕二（西南女学院大学）「鈴木孝夫著『ことばと文化』以降の呼称の一考察」

(3) 入江 良英（精華女子短期大学）「未来からの保育・教育―その一試論―」

・第2部　14:45-15:45　司会：山崎 祐一（長崎県立大学）

(4) 常 艶麗（山口大学大学院）「日本語自然会話における『話者間反復』についての統

語的分析の試み―格成分が関わる場合を対象として―」

(5) Ghada Abdelkareem（久留米大学大学院）「アラブ現代詩と日本現代詩―タンムジグル

ープの詩と荒地グループの詩を中心に―」‐

・第3部　15:50-16:50　司会：林　裕二（西南女学院大学）

(6) 艾 文テイ（九州大学大学院）「映画『影武者』と『影』の比較研究」

(7) 黄 明淑（東京福祉大学）「ウィズコロナ時代におけるハイブリッド型授業実践の可

能性―日本語教師養成講座受講生の学びによるSCAT分析―」

３．閉会式（16:50-17-00）

**支部長　八尋 春海**

**《事務局からのお知らせ》**

　**事務局長　林 裕二**

　学会運営上の様々な事務的な対応や処理などを毎日のようにしております。定型業務が多くを占めますが、新規の対応が必要な課題もあります。対応には至らぬところもあろうかと存じますが、誠心誠意努力してまいりますので、学会員の皆さまのご協力とご支援のほど、心よりお願い申し上げます。

**○会員情報更新のお願い** 住所不明により学会誌や会報をお届けできない会員の方がいらっしゃいます。就職、転勤等によるお引越の際には、忘れずに会員調査書（＝入会申込書）に新情報をご記入の上、会員調査書送付先アドレスまでお送りください。なお会員調査書は学会ウェブサイトよりダウンロードしていただけます。

**＜日本比較文化学会 ウェブサイト 入会・会員情報変更＞** http://hikakubunka.jp/?page\_id=97

**＜入会申込書・会員調査書送付先＞** あゆみコーポレーション（業務委託先）

hikakubunka@a-youme.jp

**○会費納入のお願い**

会費の納入にいつもご協力いただき感謝いたします。2年以上未納（学生会員については1 年以上）の場合には会員資格を失うことになりますのでご注意ください。支部会費については、本部事務局ではなく、担当支部への問い合わせをお願いします。支部の運営については、各支部で定めております。

**＜会費振込情報＞ 郵便振替口座番号：02570-6-8921 加入者名:日本比較文化学会**

振り込みの際には、氏名、所属支部と何年度分の会費であるかを明記してください。

**《2020年度決算・2021年度予算報告》**

